

平成16年度 第1回コンクリート委員会・第3回常任委員会 議事録

日時：平成16年9月7日(火) 16:00～19:00

場所：ウェルシティ名古屋

出席者：丸山委員長、小柳・田澤・長瀧・三浦の各顧問、鮎田・牛島・内田・遠藤・大浦（代理：森）・大塚（代理：武田）・角田・岸・國府・阪田・庄谷・鈴木・関・田辺・近田・鳥居・名和・平澤・山崎の各委員、石橋・上田・魚本・梅原・大津・岡沢・金津・河野・坂井・堺・佐藤(勉)・佐藤(良)・鈴木・十河（代理：入矢）・竹田・武若・辻・手塚・富田・二羽・福手・松岡・宮川・睦好・山本・六郷・の各常任委員、井上・宇治・中村・三島・横田の各幹事（55名）松沼事務局職員

配付資料：

- 3-0 平成16年度 第1回コンクリート委員会・第3回常任委員会 議事次第
- 3-1 平成16年度 第2回常任委員会 議事録（案）
- 3-2 土木学会コンクリート委員会・委員会活動状況
- 3-3 平成16年度コンクリート委員会会計状況
- 3-4-1 表面保護工法 設計施工指針（案）
- 3-3-2 表面保護工法 意見回答書
- 3-3-3 表面保護工法 本指針（案）が対象とする『表面保護工』の概念
- 3-5 ローマコンクリート調査小委員会設立趣意書
- 3-6 各種小委員会委員構成
- 3-7 コンクリートライブラリー「2003年に発生した地震によるコンクリート構造物の被害分析」意見への対応表
- 3-8 「維持管理編」英訳修正作業の経過報告
- 3-9 「耐震性能照査編」英訳修正表
- 3-10 コンクリート委員会関係講習会案内
- 3-11 コンクリートライブラリー第49号「鉄筋継手指針」の改訂について
- 3-12 建設材料第76委員会第361回会議「60周年記念」開催通知
- 3-13-1 Seventh CANMET/ACI International Conference on Durability of Concrete
- 3-13-2 Eighth CANMET/ACI International Conference on Recent Advances in Concrete Technology

議事：

1. 委員長挨拶

丸山委員長より、本年度第1回コンクリート委員会開催にあたっての挨拶があった。

2. 前回議事録の確認

資料3-1の平成16年度第2回常任委員会議事録（案）が承認された。

3. 審議事項

(1) 小委員会活動報告

・資料 3-2 に基づき、丸山委員長からコンクリート委員会・常任委員会の過去 1 年間の活動状況が紹介された。

・資料 3-2 に基づき、「101 示方書小委員会」から第 1 種および第 2 種の小委員会に関して、順次各小委員会委員長、同副委員長、あるいは同幹事長より過去 1 年間にわたる活動状況の概要および今後の活動予定が紹介された。

・201 コンクリート教育研究小委員会に対し、三浦顧問から小委員会の提言を今後実施していく活動が必要との意見が述べられた。

・208 示方書連絡調整小委員会の活動に対し、長滝顧問から示方書の国際化ならびに ISO 等との整合についての検討の必要性についての意見、辻委員から構造性能照査編と耐震性能照査編は ISO19338(コンクリート構造物の設計法)のアンブレラコードを満足するものと認められているので改訂の度に対応をする必要があるとの情報が述べられた。これを受けて、丸山委員長から示方書英文化の作業は概ね終わっており、普及や情報発信の方法を検討中であるとの説明が行われた。

・第 3 種委員会の活動状況について、三島幹事から一括してその概況が報告された。

・委員会からの委員活動への費用支出について質問があり、3 種委員会は独立採算であるので報告会収入の学会への拠出金を除いた黒字分を謝金として支出し、活動費用として利用してもらうことが可能であるとの情報が提供された。

・小委員会活動について、承認された。

(2) 平成 16 年度予算の支出状況

丸山委員長から、資料 3-3 に基づき、平成 16 年度コンクリート委員会の予算概要ならびに会計状況について説明が行われ、了承された。

(3) 表面保護工法研究小委員会・指針案

山本標記小委員会委員長から表面保護工法設計施工指針(案)の概要の説明および以下の提案が行われ了承された。

・試験方法を作成しており、まとまったら基準関連小委員会に提案し、今年度の改訂に間に合うようなら JSCE の試験方法として反映してもらう。

・マニュアルは別冊とし、ブックカバーに入れて分冊で出版する。

牛島同幹事から、資料 3-4-1 および資料 3-4-3 に基づき内容の詳細が説明され、以下の意見が出された。

・ポリマーモルタルの用語について、レジンモルタルと使用される場合もあり確認するのがよい(小柳顧問)。

・表面保護工法の種類は多数あり、それらを含んだ指針とするのがよい。あるいは、表面被覆工法、表面含浸工法、表面修復工法のみを対象としているのなら、タイトルの工夫が必要である(田澤顧問)。なお本意見に対しては、委員からタイトルを提案してもらうこととした。

・構造物本体と表面保護工との耐用年数の関係が分かりづらい(辻委員)。

・工法と材料の性能照査の二本立てになっており違和感を感じる。また表面保護工法の性能という用語が全体の体系の中で必要であるか疑問である(堺委員)。

・表面被覆をすることでのデメリットについてふれる必要がある。(三浦顧問)

今後のスケジュールとして、各委員は同指針(案)に対する意見を 9 月 21 日(火)までに資料 3-4-2

により松沼事務局に送付することとし、10月7日(木)の常任委員会で修正案の審議を行うこととした。

(4) ローマコンクリート調査小委員会の設置

坂井委員から資料3-5に基づき、標記小委員会の設立趣旨、活動目的ならびに活動内容について説明が行われ、目的が社会貢献であるので第一種委員会(114)として設置が了承された。

(5) 小委員会委員の追加・交代

丸山委員長から資料3-6に基づき、各小委員会の委員構成の変更ならびに新設委員会の委員構成について説明が行われ、了承された。

(6) その他

特になし。

4. 報告事項

(1) 継手定着指針改訂の準備状況

三島幹事から資料3-11に基づき、標記指針改訂の経緯ならびに準備状況について説明が行われた。次回常任委員会で小委員会設立について審議を行うこととした。なお、57年度以降の継手関係の指針内容への対応について質問があり、それらを含んだ内容とする予定であることが説明された。

(2) コンクリートライブラリー「2003年に発生した地震によるコンクリート構造物の被害分析」

中村標記小委員会幹事長から資料3-7に基づき、標記原稿への修正意見に対する対応について説明が行われ、コンクリートライブラリーの原稿として了承された。

(3) 示方書小委員会・設計例の作業状況

石橋標記小委員会幹事長から、設計例の作業状況について報告が行われ、次回常任委員会で資料を提出し、議論してもらう予定であることが報告された。

(4) 示方書英訳原稿

上田標記小委員会委員長から、資料3-8および3-9に基づき、作業の進展状況が説明された。

・構造性能照査編、維持管理編、耐震性能照査編とも基本的には修正意見に従った修正を行っている。今回の報告は中間報告である。

・示方書の英訳版をどのような立場で出版するかについて考えなければならないとの意見があり、丸山委員長から英語については検討しだせばきりがなく、意味が伝わるものを早く出すことが重要であるとの見解が示され、12月までに出版して欲しいと再度要請が行われた。

(5) 「JIS Z 8801 試験用ふるい」の改訂状況について

河野委員から標記内容について、以下の説明が行われ、興味のある委員は松沼事務局に連絡し郵送してもらうこととした。

・証明書を使用者の要求に応じて発行する。

・寸法の扱いは2通りあるが、ISOでは補助寸法はなくす方向であるが、標記内容では補助寸法になっている。

(6) 平成17年度出版物の出版企画について

宇治幹事から出版予定の確認があり、以下の小委員会関係の出版物について企画書提出の依頼が行われた。なおその他出版予定があれば宇治幹事まで連絡することとした。

- ・示方書小委員会(示方書設計例)(3月)
- ・ASR小委員会(5月)
- ・吹きつけコンクリート(5月)
- ・示方書小委員会環境部会

(7) JSCE Guidelines for Concreteについて

宇治幹事から標記ガイドラインについて以下の出版予定が説明された。

- ・現在No.3まで出版が決まっている。
- ・英訳版示方書は標記ガイドラインのシリーズとして印刷物で出版し、定価は日本語と同じにする予定である。
- ・構造性能照査編、維持管理編、耐震性能照査編は年内にNo.4~No.6で出版し、施工編は来年4月に出版を予定している。

(8) その他

- ・三島幹事から資料3-10に基づき、コンクリート委員会関係の講習会の開催が紹介され、関係者への案内が要請された。
- ・武若委員から資料3-12に基づき、日本学術振興会建設材料第76委員会第361回会議の60周年記念シンポジウムの開催が紹介された。また、出席を希望する場合は、魚本委員、武若委員、東京理科大学の辻先生のいずれかからの紹介ということで、参加登録をして欲しいとの説明が行われた。

5. その他

特になし

以上